



# トガリネズミラヴァー 六田晴洋の 私たちのご近所さん



VOL. 14 「ロードキル」

夫婦の片方が車にひかれてしまつたのでしよう。私がさつき車で通つたばかりの道で、その時はいませんでした。事故は30分以内に起きたのだと思います。生きている方のタヌキは、動かない相方を不思議そうに見つめています。私はそれを遠くから眺めていて、私はそれを遠くから眺めることができませんでした。

その場から去つていきました。タヌキは哺乳類としては珍しい一夫一妻で、繁殖期の半年以上期間、夫婦で行動を共にするそうです。子育ても夫婦で協力して行います。突然一匹になってしまったタヌキは何を思つていて、私はそれを遠くから眺めることしかできませんでした。しばらく経つと、見つめているのか、子どもはいるのだろうか。私はその一匹が茂みに入つて見えなくなるまで見送りました。

ロードキルを防ぐために北海道に住んでからと言うもの、日常的に目にする道路上で死んでいる動物。正直「またか」と思うほど、人と野生動物の距離が近い北海道ではロードキルが頻繁に起っています。急に道に飛び出してくる動物は、どんなに安全運転をしていても避けられない場合だつてあ

ると思います。エゾシカなんかと衝突してしまった日には、車や人も無傷でも済まないでしょう。動物のためにも人のためにも防げるものなら防ぎたいロードキル。近年では、動物が道路を安全に渡れるように専用の地下道を設けてある所もあるようです。

私たちにできることは、安全運転を心がける、動物が道路に出てくる機会を減らすために餌を与えない、生ごみなどを捨てない、といったことが挙げられます。悲しいロードキルが一件でも減ることを願つて…。

あるタヌキ夫婦の別れ

ある日の夕方に遭遇した場面。道路で横たわったタヌキを見つめるもう一匹のタヌキがいました。



車にひかれてしまったエゾタヌキ



事故現場を去る夫婦の片方

## PROFILE

**六田晴洋**

ろくたはるひろ

1986年生まれ。

2021年に白糠町へ移住。大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。E-mail [rokuta@six-h.com](mailto:rokuta@six-h.com)

